

【事業概要】国際物流の多元化・強靱化に向けた実証調査

令和6年度予算

- コロナウイルスのパンデミック、国際情勢の悪化、干ばつや地震などによるサプライチェーンの混乱が起きている中、安定的なグローバルサプライチェーンの確保に向けて国際物流の多元化・強靱化を図る観点から、従来の輸送手段・ルートを代替又は補完する輸送手段・ルートについて実証輸送を実施し、その有効性を検証する。
- 実証輸送の参加事業者及び対象とする輸送手段・ルート等については、公募により選定する。

実施方針

○公募期間 令和6年11月6日（水）～令和6年12月6日（金）

○対象事業者 日系荷主企業、日系物流事業者等

○実施条件 ①令和6年11月中旬～令和7年1月に実施するものであること。

②日本を発地又は着地とし、以下のルートにて輸送するものであること。

- ・ パキスタンのカラチ港からアフガニстанを経由し中央アジアと日本を繋ぐルート
- ・ 北米ミナランドブリッジ（北米港湾・カナダ港湾で揚げ、内陸鉄道）を利用し、日本と欧州を繋ぐルート
- ・ 南シナ海を迂回し、日本とASEAN諸国を繋ぐルート
- ・ その他、中央回廊カスピ海ルートを利用した特別な輸送提案など、事業者側からの提案に依るルートで新規性が認められるもの

○選定方法 国土交通省において、以下の事項等について総合的に審査を実施

①実証輸送の必要性：

輸送手段・ルートとして一定の新規性があり、検証の必要性があること等

②実証輸送の実現可能性：関係者間で、貨種・貨物量や輸送ルート等の調整ができていること等

③当該輸送手段・ルートの汎用性：他の日系荷主企業・物流事業者等への展開可能性があること等

○検証事項 輸送コスト、リードタイム、輸送品質、輸送の際の手続き、トレーサビリティ、BCPルートとしてのリスク評価、等

《参考》対象ルート例



留意事項

○実証輸送の実施に当たり、調査協力経費として、一輸送につき原則110万円を国費より支出。

○実証輸送の進捗及び結果は、各参加事業者からアンケート、ヒアリング等によりご報告いただき、最終的には報告会、報告書等の形で公表予定。